

平成29年度第2回幹事会の概要

◆日時／場所／参加者

日 時：平成29年9月28日（木）14：00～16：05

場 所：アバンセ4階 第1研修室A

参加者：役員20名（うち1名代理出席）、事務局6名 ※欠席5名

【次第】

- 1 開会
- 2 新幹事紹介 富崎氏、原田氏
- 3 会長挨拶
- 4 議題
 - (1) あり方検討プロジェクトチーム会議の経過報告について【報告事項】
 - (2) 今年度上半期事業報告について【報告事項】
 - (3) 今年度下半期事業計画（案）について【決議事項】
- 5 その他
 - (1) 諸連絡
- 6 閉会

◆決議した事項

< (1) あり方検討プロジェクトチーム会議の経過報告について【報告事項】 >

○第1回幹事会でのメンバー決め～第2回あり方検討会議の経緯を説明

（あり方検討会サブリーダー・羽石氏）

○結論（案）の説明（あり方検討会リーダー・藤原会長）

【あり方検討会の最終答申】

高情協を存続させる条件として、より多くの会員が参画しうる事業や新しい取り組みをもって、組織のさらなる活性化を図ることが必要

※組織活性化のために、新たな取り組みを行っていくという条件のもとで組織は存続

※会員構成や財政面、幹事会や企画運営G等の事業の進め方などの枠組みについては従来のまま

（主な質問・意見）

◇過去2回、H25(2013)年度とH18(2006)年度にあり方検討会が開催されている。2回とも参加した者として、今回の検討会は過去の検討会とは違うという印象を受けた。企画運営Gの事業提案を出す検討会のように感じた。ちなみに、H18年度の検討会では、新たにプロジェクト事業を実施することになった。公募で事業提案を集め、選ばれた事業に開発補助金を出して、将来の事業に向けたパイロット・プロジ

ェクトを実施してもらうようになった。つまり、プロジェクト重視型に舵を切った。さらに次のステップでは、官から民へ大きくシフトしていきたい、とまとめた。これらの内容が H18 年度の検討会の結論であった。H25 年度の検討会では、高情協の組織や制度を改編すれば、まだまだ高情協は存在する価値があるはずだ、ということになり企画運営 G や広報 G を立ち上げるという組織の改編が行われた。今回の報告は、高情協が存在すべきかどうかという点が、この結論案には出てきていないと感じた。

- ◇私も同じ考えだ。バブル絶頂期に設立されたのが高情協で、当時は県の税収も多く県からの補助金も数百万いただいていた。H18 年度の検討会は、高情協をなくそうという声が大きかった。しかし私は残そうということを言い続けた。縮小してきているものの、これだけの産官学の組織を新しくつくるのは大変だ。今ある組織をリニューアルして、存在意義を高めていこうという結論になった。ただ、私は事業論者だ。常々プロジェクトをやろうと言い続けてきた。だから、今回の事業の提案については違和感がない。
- ◇あり方検討会のリーダーである藤原会長から、高情協は必要だという結論が早めに出たため、現実的な話に移行したと認識している。県でも電子マネーの話が挙がっており、あり方検討会メンバーの複数からも同じような話が挙がっていて、理念が一致していたため、継続して何を行っていくかという話になった。高情協が存在すべきか否かというベースの部分の話し合いができていないのではというご指摘だか、いろいろな組織の話は、今回の検討会ではそういう点ですぐに乗り越えたという認識を持っている。
- ◇やはり、そのベースの部分を話し合うべきなのでは。本日出席されている幹事の方々も、そのように受け止めていたのではないだろうか。
- ◇実際に、企業と市民団体との連携はしにくいと思うが、高情協がこのような方向性で行きたいというのがあまり見えないと感じている。地域（市町村）との連携を強化し、県民に PR できるものがあればと思う。
- ◇高情協をなくすのはもったいないという意見は、今年度の検討会でも出た。ただ、枠組みだけあってもやるべきことがなければ意味がないので、やるべきことがあるのかを全会員に募集をかけた。その結果を検討会のメンバーで見て、やるべきことがまだ残っているのではということになり、存続の方針を出した。しかし、どのようにそれらの具体的な提案を実装していくかは、あり方検討会が話し合う内容ではないということで、企画運営 G に議論してもらおうということになったと認識している。
- ◇高情協を続けるか無くすかでは、会員の参画する意識が重要だ。入会してから心配していることは、会員から意見を聞くとかアンケートをとるといった機会をこれから継続して行っていけば、いろいろな意見が会員から出るのでは。プロジェクト事業が前面に強く出てくれば、参画する人は増えると思う。よって事業化には賛成。
- ◇スライド資料 p10～p11 の事業提案は、具体化に向けて詳細に検討していくのか。
→新しい事業を行う際に幹事会直轄事業で収まるか、それに収まらないのであれば新しい組織・制度をつくることもありうる。

- ◇あり方検討会では、今後このようなことをやろうという提案が出され、継続してできるのであれば幹事会にかけようという話だった。だから、個別に具体的な話まではしていない。
- ◇以前の幹事会で、あり方検討会では手続き論とか方法論をゼロベースで検討するということだったと認識している。今回の報告で、高情協は継続すべき価値があり、より良くしていくためにいくつかの事業提案が出され、志を高めていこうということになったと認識した。様々なニーズに応え、時代に合った取組を行い、会員にもメリットのある取組をすすめていく今の高情協の手続き論や方法論はどうか。また、今後どのような議論をされていくのか聞きたい。
- ◇手続き論や方法論の重要性もわかるが、中身がなくて枠組みばかり議論しても仕方ないし、走りながら事業にあった枠組みを検討すればいいのではと認識している。
- ◇枠組みがないと話が進まないこともある。事業提案を実行するための方法論や手続き論まで具体的に話し合わないと、次の幹事会でも諮れないのでは。
- ◇枠組み論の議論はもういいのでは。あり方検討会がこれで行こうと出してきた答申なので、行くのか行かないのかをこの場で審議して行くとなれば行く方法を話し合うべきだ。
- ◇企画運営Gでは、提案を個別に検討してスキーム（計画・枠組み）などを次の幹事会では提案できる。5名の提案すべては難しいが、できる・できない（しなくていい）を選別し、できるのであれば、どこからどのように始めるか整理し、幹事会に提案していきたい。提案の一部分は今日提案できる。
- ◇提案の発案者が企画運営Gの話し合いに入らないといけないのではないか。取捨選択や優先順位等も含めて議論してもらいたい。
- ◇あり方検討会での提案は、今すぐではなくて将来的にどういうことをしたいかという認識で提案している。達成の時間軸は異なるということ。提案者は皆が今すぐのことと思って提案した訳ではないのでは。
- ◇達成時間軸の違いやどれくらいの可能性があって提案されたのか等、今後企画運営Gで議論してもらいたい。
- ◇次回の2月頃の幹事会よりも前に提案しても構わないか。
- ◇12月や1月でもいい。全提案を提案者から話を聞いて、議論した方がいい。次の幹事会に向けて中間精査・実行に向けたプランニングをして、提案してもらいたい。

< (2) 今年度上半期事業報告について【報告事項】 >

- 事務局報告に対する質問・意見なし

< (3) 今年度下半期事業計画（案）について【決議事項】 >

[1] ICTに関する講演会等【ｽﾗｲﾄﾞ 40～41】

- 『第2回 ICT 利活用講演会』事務局案 4 テーマ提示

→今この場では決めきれないだろうから、改めて事務局からサイボウズで募集してもらおう。これらのテーマ以外でも可能。「テーマ」「その理由」「講演者」を挙げてもらおう。締め切りは10月8日（実際は10月9日の月曜日が体育の日のため、この日

まで募集する)。講演会の日程は11月下旬頃を予定。

○『ICT利活用取組事例視察』

→10月に全会員にメールで希望視察先を募集する

→昨年度は募集の返信があまりなかったため、今年度は幹事各位も返信していただきたい。

[2] 情報リテラシー・セキュリティ事業【スライド 42～43】

○事務局案承認

[3] ICT普及に関する講習会【スライド 44～45】

○事務局案承認

[4] ICT利活用促進調査研究及びICT利活用促進実証事業【スライド 46】

○事務局案承認

(主な質問・意見)

◇ 実証事業に関して、インターネットでのお買い物体験をしているが、「はじめてのスマホ・タブレット講座」の中で、一つの教材としてネットショッピングの時間も設けられないだろうか。この方法なら、これからスマホを持つ方の利用価値も高まるし、実証事業の発展的な取り組みになるのではないか。過去、自分自身が講座をした際に「スーパーモリナガ」さんのHPを利用してネットショッピングの疑似体験を行ったことがあるが、講座の中でこの時間が一番盛り上がった。講座の中に入れてみるか、講師の方は検討してほしい。

◇ 事務局の方で「スーパーモリナガ」のHPを確認してみて、可能なら今度の12月のスマホ・タブレット講座でネットショッピング疑似体験にも挑戦してみて、受講者の反応を見ることができないだろうか。

◇ 唐津での実証事業は参加者が高齢すぎて、機器の講習をした意味がないような状態であった。今回の受講者はネットショッピングに対するハードルも高かった。実際にまいづる店舗に来た人にネットショッピングを体験してもらうのはいいことだと思う。

[5] 事務局からの相談…来年度、高情協30周年に向けて

○高情協20周年の時、記念事業が行われた。来年度の事業計画を立てていく中で、記念事業の具体的なプランのご意見をいただきたい。まずは20周年でどのような記念事業を行ったかという情報を事務局から提供させていただきたい。それを参考にさせていただきながら、あるいは独自の発想で、30周年の記念事業でこういうことに取り組んでみてはどうかという提案をいただきたい。次の幹事会までに、構想を温めさせていただきたい。そのようなメールを幹事の皆様にお送りしてよろしいでしょうか。

◆次の行動

《幹事》

- 事務局からの講演会についてのサイボウズメールを10月9日(月)までに返信する。
- 視察先の候補地を返信する(10月中)。
- 事務局から10年前の20周年記念行事の情報を入手し、プラン案を事務局に提示する。

《事務局》

- 幹事に講演会テーマ・理由・講師講演者名の募集をサイボウズメールにて送付する
(9/29)

- サイボウズメールの返信を受けて、講演会テーマ・講師の選定
- 視察先を全会員宛に募集をかける(10月中)
- 10年前の20周年記念事業を調べ、その内容を幹事に報告する。